



# 偉大な親を超えられないパン屋の二代目が いま思うこと 「ふじ森」代表 藤森 もも子様

## 卓話者の紹介 岡田 邦男会員

私の大学の先輩、藤森二郎さんの娘さんです。三番町に在住です。藤森二郎さんは日本にフランスパンを普及させた方です。銀座のプランタンに出店、今は鎌倉と鷺沼でも開店しています。ご本人も、田園調布と都立大学で「高級食パン ふじ森」を運営しています。他、PR 関係のプランナー、インスタのとも子ゴルフがフォロワー数が 45,000 人ぐらいで、ゴルフでも人気のある女性です。

悪いことを率先して行う人は滅多にいないと思いますし（笑）、必ずしも、自身の事業やサービス・商品はお客様にとって有益であり、ひいは自身の商売も繁盛し、従業員も幸せに・・・そんな三方良しの精神・信念で私たちは昼夜、仕事や業務に取り組みます。そんななか、その事業をより多くの人に知ってもらい、“じぶんゴト化”してもらいたい、そんなとき、あらゆる業種の方々にPRが有効です。皆さんのお商売に、PRが必要だと思ったときにはいつでもお気軽にご相談ください。

## 偉大な親を超えられないパン屋の二代目が、いま思うこと

いずれにしても、社会とのかかわりを持ちつづけることはいかなる場合においても人間の“生き甲斐”だと思っています。人は何かしらの使命を達成するために生を授けられるのだと思っていて、人生とはそのミッションをクリアすべく与えられた 猶予 で、そしてそのミッションとは、自分の特異性、専門性を生かして社会に有益をもたらすこと、そんな風に考えます。

## 二代目に生まれたコンプレックスを、強みに

たとえば偉大な父を持つ子は、なかなか超えることのできない親の存在をもってして、何か自分にしかできない専門性はないかともがくのが常です。フランスパンを日本に広め、日仏両国から勲章をもらうような偉大な父を持ったわたしも、おそらくそのひとりかもしれません。

「お父さんはパン屋さん」子供のころはそう何気なく認識していたものの、自分も同じ業界に足を踏み入れ、同じように事業をしてみると、その偉大さに嫌でも気づかされるものです。なかなか、父は超えられませんでした。やっぱり、父はすごい。

そんなときに私が身に着けたスキルがPRでした。PRとはパブリック・リレーションズの意で、わたしは「世の中と関係を構築すること」と、いつも和訳します。パンをつくることで父を超えることは到底難しい。では、わたしは父にはない、なにか別のスキルをもってして、その事業を助けられないか、育ててもらったパン業界に、何か恩返しができないか、そう思ったのが、PRマンとして一步踏み出したきっかけでした。

## 社会とのタッチポイントをつくるのが「PR」

ではどのようにしてPRというものをするのか、今回そのテクニカルなお話はこちらでは割愛しますが、冒頭お伝えしたとおり、社会に何かの有益をもたらし、それが誰かの何かの役に立ち、「ありがとう」と感謝の言葉を投げかけられた瞬間、私たちの心は磨かれていくのだと思います。

先日は、お茶の水ロータリークラブ様にて、貴重な卓話という機会を賜り有難うございました。千代田区のドン(!)たちを前に、私のような若い人間がお話をするということは、普通であればなかなかない機会です。このご縁を運んでくださった岡田様に感謝いたします。

千代田区という土地に住んで10年が経ちました。一番町に2年、その後は三番町に8年ほど。人と人とのつながりを大事にし、それぞれの専門性を生かして隣人を家族同然大切にしてくれるこの土地に住まう方々には、公私ともに仲良くしていただき、幾度と助けていただきました。

私個人としても、これからも心を磨き、そして専門性を磨き、少しでも世の中の人たちのお役に立てるようこれからも努力をしていきたいと思っております。また、皆様にお目にかかれそうです！ ありがとうございます。

藤森 もも子